

調査日 群馬県森林組合連合会共販所 3月6日

今回は前橋木材共販所開設65周年の記念市が開催された。

高額買受者及び優良出荷者の表彰が行われた。

昭和34年に開設された時は、今は前橋市街になっている上小出町の田んぼのただ中で赤城おろしの吹きすさぶ、2月18日であったと聞いている。本来の開設記念日は2月であったが、あまりの寒さと風の為3月に”開設記念日”を定めてそうだ。上小出町から今の上大島へ移ったのが昭和43年でその頃工業団地として開発された現在の市場は、やはり周りは田んぼで、東側には湿地が広がり葎が茂っていたそうである。市場を開設するにあたり、土地を平面的に使用する原木市場は”工業団地としての利用基準から外れる”との問題もあった様だが、無事に開設することが出来た。私が当時”東前橋木材共販所”と呼ばれていた現在の前橋木材共販所でお世話になり始めたのは、それから10年後の昭和53年であった。

その頃はもう周囲は家具工場が沢山あって”木工団地”と呼ばれていた頃である。

フォークリフトはあったが、まだ未舗装で梅雨時ともなると元々は田んぼだった地盤はぬかるんで梅雨明けまで使えない箇所もあり、抱えていた丸太を降ろして軽くなったフォークリフトは自力で脱出できなくなるため、丸太を抱えて自重を重くした別のフォークリフトがワイヤーで引っ張り出す。地面が乾けば土埃が物凄く、汗をかいた顔は真っ黒になった。わきを流れる水路からポンプで水を撒くのだが、水落ちた衝撃で更に砂埃が舞い上がり、水は水玉になって地表は水をはじく有様だった。桎積は全て鳶口で行い、検知も一本一本手で行っていた。形が不定形な丸太を積み上げて桎を作るにはそれなりの技術が必要だった。当時は積み上がった丸太の上で作業をする必要があったので、崩れないように積み上げるのは必須であったが、丸太をパズルのように組み合わせて丈夫な桎を作るのは、ちょっとした満足感もある作業だった。お陰で鳶口の使い方も覚えだし、腕も太くなった。今でも家で使う薪を作るのには手放せない道具となっている。

市況の方は、やはりスギ3.0mが減速の気配である。昨年10月頃に全く売れなかった16～18cmは明らかに減速しているが、中目材は持ちこたえている様だ。

落札予定価格は前回までの値動きを基に設定しているが、弱含みと言ってもそう安くは設定しない筈である。不落札物件が多いという事は、予定価格より下回る札が入っているという事で応札が無い物件とは全く意味が違い、買い手がいるという事である。

但し、今回最終的に不落札になった物は、曲がり材など何かしらの欠陥がある物が多く、おそらく同一の業者と思われる。欠陥材を目当てに安く札を入れ、落札できた物を集めると言う買い方だ。4.0mも角材用はスギ・ヒノキ共に良く売れている。先月の報告で人気の無かった4.0m中目材も大幅な値下げとなったものの、溜まった分も含めて売れていた。暫くはこの値なら売れるだろう。

調査日 素材生産協同組合 3月7日

今月は6日・7日と連続の市場調査となった。もっとも今回の素生協の市では広葉樹が多く出品されていて、市の趣はまた違ったものになっている。

広葉樹は曲がりが多く、短い造材になるが、通直なものは、3.0m・4.0mと言った物もある。

グリなどは、土台に使うとすれば長いに越した事は無いが、柱の足を固定するための役目なので繋いで使っても、全く問題はない。

その他様々な樹種が出品されていたが、在庫を一掃した後なので皆新しい材で買い方の寄付きが良い。広葉樹では長さよりも 太さ・色・形状 など多くの判断要素がある。

もちろん樹種ごとに使い道が違ふ訳だが、一旦粗挽きして、ゆっくりと自然乾燥させる必要がある。

その為広葉樹を扱う業者は、目ぼしい材があれば逃さずに買って置き、在庫として寝かせておく。

また、近頃の用途としては人工乾燥してフィンガージョイントで継ぎ、集成材を作って大幅の板材

など フリーボード として良く使われる。フリーボードは樹種も豊富でかなりの幅の材も作れる事から内装材・家具材料・DIYなどによく使われているが、かなり高価な材料ともいえる。

今回の市ではあまり太い物が無かったせいもあり、買い方の顔ぶれを見ると後者の方の使い道がほとんどの様だ。もっとも前者の使い道だと、原木そのものが、ある程度目詰まりであったり年輪が中心にあって、癖のない物 更に木味(キアジ)と言って製材時の感触や木肌の色や風合いが良い物でなければならず、この辺りは長い間木と付き合ってきた人でなければ判らない領域である。かつて馴染みの広葉樹業者に教えを乞うたことがあった。「あそこに出ていたナラはどうだろうか?」「あんな石ナラは要らない。うまく使える人があれば売れるのだからがね。」との事 どうも硬い材だった様で、こういう材は往々にして内応力が強く掛かっている場合が多く、狂いも強いらしい。

針葉樹市場の方は好調によく売れた。落札単価は県森連とあまり変わりはないが、落札率は県森連より良い様だ。素生協は県森連と違って”曲がり”や”古材”などの表示をしない。

買い方が自分の責任で見極めるのが建前になっている。したがって一般材に曲がりや混入している訳だが、影響はない様で、県森連とほぼ同じ価格で落札されている。

スギの40~50cm大丸太はさすがに、材質が問われるが、良い物であっても今はあまり使い道が少ない。

買い方の顔ぶれは県森連と比べるとかなり幅が広く、埼玉県秩父や小川 富岡市・下仁田町など昔から製材工場の多い立地に囲まれている事が判る。特に燃料代が高い昨今は運搬距離が落札金額に与える影響は比率が大きくなって来ている。